

 評価のポイント

CL-3.専門性の開発能力

[63-3] 根拠に基づく看護実践の基本：最善のケアの選択と根拠（複雑事例）

1. 最近受け持った複雑な背景をもつ患者に対する困難な看護実践を振り返り、最適な看護実践を選択するためにどうしたら良いか考えてみましょう。科学的根拠と、患者の希望、現実的なマンパワーなどとのバランスをどう問うべきでしょうか。

2. 今回の講義内容を踏まえ、どんな看護実践を選択すべきだったか、個人またはチームで考えてみましょう。

複雑な背景をもつ患者に対する困難な看護実践を振り返り、最適な看護実践を選択するための示唆が得られることを期待する。特に科学的根拠（研究結果）と、患者の希望、現実的なマンパワーなどとのバランスについてチームで議論することが望ましい（例：効果が高い介入だが、実施には技術を磨くための多くの練習時間とマンパワーが必要であり、それは実現可能かなど）。

上記の議論に際して、以下の視点が含まれることが期待される。

- ・ 患者がどの程度複雑であるのか評価できる
- ・ その上で、医療チームの目標を大雑把に把握できる
- ・ 困難事例への介入は、ステップで考えることができる
 - ✓ 介入の適応を検討
 - ✓ 患者の意向や価値観
 - ✓ 周囲の状況
 - ✓ ゴール設定（QOL）
- ・ 科学的根拠と患者の意向、資源等を天秤にかけ看護実践方法を選択することができる。特に、資源（家族、医療者のマンパワーなど）とのバランスを考えることができる。
- ・ 複雑であればあるほど、医療者間、医療対患者家族間での話し合いが重要であることに気がつくことができる。